

評価の基準 (3:よくできた 2:できた 1:あまりできなかった 0:まったくできなかった)

項 目		小項目	小項目 評定	項目 評定	現況	項目 評定	学校関係者評価 意見・提言等	今後の学校改善に向けて
主体的・対話的で深い学び	1	支持的風土を育てる学級・学年集団づくりの実践	1.8		・本校の児童は、学習に向かう基本姿勢に困難さがみられる子も多く、個別の関わりを求めるため、主体的対話的な学びをどう進めようか難しさを感じている。まずは、対話の前の子どもの会話の場面を増やすことが大事。学級や学年の人間関係を豊かにし、実践を重ねていく必要がある。 ・低学年のうちから、一貫した指導が肝心だと考えるので、授業に向かう姿勢や規律は担任が変わると変わるのではなく、だれが担任しても同じを目標で進めることができるよう授業研究や研修会を通して職員の間共通理解を図ってきたい。		・問題を洗い出し、把握されていて今後に向けての方向性も持たれているのでよい。 ・6年生ですが、担任がいる時といない時で子どもたちの様子が違うと聞いた。この先生は何をしてもOKではなく、自分の担任の先生が困ることになるということを子どもたちが理解してくれたらいいなと思う。 ・テストのやり方に驚いた。前を向いて行う形でよいのではないかな。	・ベア・グループの学習をきちんと授業の中に取り入れ、いつでもだれにでも聞くことができる雰囲気づくり・環境づくりに力を入れていく。 ・「どの子にもあると便利な支援」を増やしていく。 ・児童が、自分の思いを伝え合い、聴き合える力をつけていけるような授業について校内で研究していく。
	2	協同する体験・伝え合う喜び・コミュニケーション能力の育成を図る授業の工夫改善(ICTの活用含む)	1.8		・主体的な学びの姿が見られるには、まだまだ時間がかかるかもしれないが、ドリル学習きちんとやらせることで、基礎的な学力をつけながら、話し合う時間や考える時間などを十分確保し、学びが深められるようにしていきたい。 ・今後は、行事のために班活動を取り入れ、自分だけでなく、周りの人のことを考えることができるような仕組みを取り入れていきたい。	2		
	3	主体的・対話的で深い学びを追究する授業研究や研修会	1.9		・今年度も校内での授業研究では、「学級のユニバーサルデザイン化を目指して(授業・環境・集団作り)」をテーマに授業研究を進めてきた。その中で、ベアやグループでの話し合いや活動を取り入れたり、どの子にもあると便利な支援ということで各クラスに九九表やひらがな表、振り返りの書き方例、ローマ字表を貼ったりして児童への学びを支えていくようにした。また、いじめ防止学習や人との距離を考えさせる学習、人権週間にはお昼の放送で人権について考える時間をもった。			
道徳教育の充実	4	生命を尊重する心やいじめを許さない態度などの道徳的実践力を育てる活動の実施	2		・毎年、各年の初めには、全校でいじめを許さない態度の学習を全学級で行っている。また、学校教育全体を通して生活の中で起きたトラブル指導の中で集団生活や生き物と触れ合うことについて児童とともに考えている。継続していきたい。		・何がいじめにつながっているのか、道徳とはと考えられるとよいと思う。他人の考えや立場も理解できる。いじめとけんかの違いって何かな。道徳を守ることの合理性、カッコよさ、明るい言葉で表現し合うことで教室の空気も明るくなりますよ。 ・「それは、いじめだと思っていなかった。」と子どもが思っている事案も多いのではないかなと思う。 ・自分の子も含めて、自分の意見を言う子は少ないなと感じている。もっと少人数からでも話し合い意見を言う場を作っていけたらよいのではないかなと思う。 ・中学校の道徳参観は、クラスによってさまざまだが、とても良かった。小学校と中学校で共有してほしい。	・教材研究や教材の共有について研修をしていく。 ・全校で行っている、「いじめを許さない態度の学習」は、引き続きを行う。 ・学校教育全体を通して生き物と触れ合うことについて児童とともに考えていく。ただ捕まえて楽しむだけでなく、命のあるものをどのように扱うことが大切かについて児童と一緒に考えていく。
	5	道徳科の授業・評価に関する研究や資料の開発・整備・交流	2		・道徳の授業自体を児童が苦手そうにしている。また、ゲームや通信アプリの普及によってバーチャルとリアリティが区別できなくなっている児童が増えているように感じている。もっと前向き、学習したことが実生活に結び付くことができるように、学びや思考の楽しさを取り入れた授業の工夫が必要である。教材や授業方法の研究等を教職員全員で交流していきたい。 ・少しずつ自分の考えを学習中に発言できる児童が増えてきている。毎回は難しいと思うが、授業公開などを機会にして児童が多面的な見方ができるようにじっくりと考えられる時間を取ってきたい。	2		
	6	保護者等への道徳科の授業公開	2		・教職員の力量が高まるよう、道徳的価値項目ごとの評価例や、見立てなどの研修を今後も続けていきたい。 ・人権意識を高めることが道徳教育の充実につながると考える。本校も小さい学年から増う必要があるため、日々の生活の中で誰もが人権意識をもって生活していく環境を整えていく必要がある。 ・保護者等への道徳科の授業公開は年に1回は行うようにしている。今年度も11月に実施することができた。	2		
体力づくり	7	たくましい心と体を育てる魅力ある授業の工夫改善	1.9		・今年度も校内での授業研究では、「学級のユニバーサルデザイン化を目指して(授業・環境・集団作り)」をテーマに授業研究を進めてきた。その中で、ベアやグループでの話し合いや活動を取り入れたり、どの子にもあると便利な支援ということで各クラスに九九表やひらがな表、振り返りの書き方例、ローマ字表を貼ったりして児童への学びを支えていくようにした。また、いじめ防止学習や人との距離を考えさせる学習、人権週間にはお昼の放送で人権について考える時間をもった。		・何がいじめにつながっているのか、道徳とはと考えられるとよいと思う。他人の考えや立場も理解できる。いじめとけんかの違いって何かな。道徳を守ることの合理性、カッコよさ、明るい言葉で表現し合うことで教室の空気も明るくなりますよ。 ・「それは、いじめだと思っていなかった。」と子どもが思っている事案も多いのではないかなと思う。 ・自分の子も含めて、自分の意見を言う子は少ないなと感じている。もっと少人数からでも話し合い意見を言う場を作っていけたらよいのではないかなと思う。 ・中学校の道徳参観は、クラスによってさまざまだが、とても良かった。小学校と中学校で共有してほしい。	・教材研究や教材の共有について研修をしていく。 ・全校で行っている、「いじめを許さない態度の学習」は、引き続きを行う。 ・学校教育全体を通して生き物と触れ合うことについて児童とともに考えていく。ただ捕まえて楽しむだけでなく、命のあるものをどのように扱うことが大切かについて児童と一緒に考えていく。
	8	体力づくりを推進する運動実践	1.8		・12月には雄琴スポーツランキング(一分間なわとび)、1月にはおごとランニングフェスティバル(持久走)を行い、児童が一人ひとり目標をもって体力づくりができるようにした。	2	・何がいじめにつながっているのか、道徳とはと考えられるとよいと思う。他人の考えや立場も理解できる。いじめとけんかの違いって何かな。道徳を守ることの合理性、カッコよさ、明るい言葉で表現し合うことで教室の空気も明るくなりますよ。 ・「それは、いじめだと思っていなかった。」と子どもが思っている事案も多いのではないかなと思う。 ・自分の子も含めて、自分の意見を言う子は少ないなと感じている。もっと少人数からでも話し合い意見を言う場を作っていけたらよいのではないかなと思う。 ・中学校の道徳参観は、クラスによってさまざまだが、とても良かった。小学校と中学校で共有してほしい。	・教材研究や教材の共有について研修をしていく。 ・全校で行っている、「いじめを許さない態度の学習」は、引き続きを行う。 ・学校教育全体を通して生き物と触れ合うことについて児童とともに考えていく。ただ捕まえて楽しむだけでなく、命のあるものをどのように扱うことが大切かについて児童と一緒に考えていく。
	9	体を動かす気持ちよさを体験させ、進んで体を動かそうとする意欲の育成	1.6		・休み時間、放課後、休日などで運動の習慣化が必要だと思っている。休み時間には、児童と一緒に運動場でドッジボールや鬼ごっこ等の遊びを教職員も一緒にやるようにしている。体を動かすことが楽しいと思える子どもたちになるように、今後も、休み時間の触れ合いを大切にしていきたい。			
指導改善 (組織的・計画的)	10	学力向上を目指した指導体制・指導方法の工夫改善	2		・生徒指導案件に多くの時間を割いている現状はあまり変わっていないため、教材研究等になかなか時間がさけない現状がある。しかし、昨年度よりも、先の見通しを持ちながら授業内容や狙いなどを教職員間で話題にすることは増えてきている。タブレットを有効的に活用して、児童の実態に応じた支援について考えていくことができたかと思っている。来年度に向けて校内研究を中心に研究の体制を整えていきたい。	2	・何がいじめにつながっているのか、道徳とはと考えられるとよいと思う。他人の考えや立場も理解できる。いじめとけんかの違いって何かな。道徳を守ることの合理性、カッコよさ、明るい言葉で表現し合うことで教室の空気も明るくなりますよ。 ・「それは、いじめだと思っていなかった。」と子どもが思っている事案も多いのではないかなと思う。 ・自分の子も含めて、自分の意見を言う子は少ないなと感じている。もっと少人数からでも話し合い意見を言う場を作っていけたらよいのではないかなと思う。 ・中学校の道徳参観は、クラスによってさまざまだが、とても良かった。小学校と中学校で共有してほしい。	・教材研究や教材の共有について研修をしていく。 ・全校で行っている、「いじめを許さない態度の学習」は、引き続きを行う。 ・学校教育全体を通して生き物と触れ合うことについて児童とともに考えていく。ただ捕まえて楽しむだけでなく、命のあるものをどのように扱うことが大切かについて児童と一緒に考えていく。
	11	教職員の指導力、情報活用能力、及び組織的な教育力の向上	2		・若手教員の指導育成や教職員全体の指導力を高めるためにも、無理のない範囲で職員全員が参加して研修をしていきたい。	2	・何がいじめにつながっているのか、道徳とはと考えられるとよいと思う。他人の考えや立場も理解できる。いじめとけんかの違いって何かな。道徳を守ることの合理性、カッコよさ、明るい言葉で表現し合うことで教室の空気も明るくなりますよ。 ・「それは、いじめだと思っていなかった。」と子どもが思っている事案も多いのではないかなと思う。 ・自分の子も含めて、自分の意見を言う子は少ないなと感じている。もっと少人数からでも話し合い意見を言う場を作っていけたらよいのではないかなと思う。 ・中学校の道徳参観は、クラスによってさまざまだが、とても良かった。小学校と中学校で共有してほしい。	・教材研究や教材の共有について研修をしていく。 ・全校で行っている、「いじめを許さない態度の学習」は、引き続きを行う。 ・学校教育全体を通して生き物と触れ合うことについて児童とともに考えていく。ただ捕まえて楽しむだけでなく、命のあるものをどのように扱うことが大切かについて児童と一緒に考えていく。
	12	働き方改革の取組と教育活動の質の改善	1.8		・4・5・6年生では、算数科・理科で教科担任制、3・4年生では、音楽科の担任以外の教師が授業を行う入授業、全学年でALTを活用した外国語の学習、6年生では社会科・家庭科で交換授業を行い、複数の目で児童を見る指導体制をとっている。担当教科についての指導力向上や働き方改革にもつながっている。			
育ちと学びを支える連携								
① 家庭・地域との連携・協働	13	保護者の子育てに対する積極的な支援	1.9		・児童の良い面や学級の様子をホームページや懇談を通じて発信することができたと考えている。日頃から保護者との関係は本当にとても大切だと感じているので、気になることについて保護者と内容を共有・連携し児童の成長と一緒に支えてきた。しかし、児童に関する多くのことを学校が担っている状況が現状ある。学校がやるべき業務と家庭、地域が行うことをしっかりと分けて伝えていくことが必要ではないかと考えている。また、学校の思いと保護者の思いにズレがあると感じることがあったので、しっかりと話し合う場を持つ必要がある。 ・学校で指導した内容については、保護者に対しては、保護者に対しては伝えていくことを今後も大切にしていきたい。伝えて終わりではなく、その後の様子などもしっかりと見守り、児童の成長を学校・保護者で支えていきたい。	2	・何がいじめにつながっているのか、道徳とはと考えられるとよいと思う。他人の考えや立場も理解できる。いじめとけんかの違いって何かな。道徳を守ることの合理性、カッコよさ、明るい言葉で表現し合うことで教室の空気も明るくなりますよ。 ・「それは、いじめだと思っていなかった。」と子どもが思っている事案も多いのではないかなと思う。 ・自分の子も含めて、自分の意見を言う子は少ないなと感じている。もっと少人数からでも話し合い意見を言う場を作っていけたらよいのではないかなと思う。 ・中学校の道徳参観は、クラスによってさまざまだが、とても良かった。小学校と中学校で共有してほしい。	・引き続き、家庭・地域としっかりと課題について共有し、子供たちの成長を支えていく。 ・地域に出ていく学習を増やし、学習サポーターや地域協力者の力を惜みながら子どもたちと一緒に学ぶ機会を増やしていく。
	14	保護者・地域との交流や情報発信、参観、懇談会、研修会の実施、地域人材の活用	2		・今年度は、夏休みに学校運営協議会の役員に皆様と一緒にカリキュラムについて感る機会を持つことができた。「おごと大好き」の児童を育てるために地域教材を発掘し、もっと地域に出る学習・地域と繋がる学習をしていきたい。	2	・何がいじめにつながっているのか、道徳とはと考えられるとよいと思う。他人の考えや立場も理解できる。いじめとけんかの違いって何かな。道徳を守ることの合理性、カッコよさ、明るい言葉で表現し合うことで教室の空気も明るくなりますよ。 ・「それは、いじめだと思っていなかった。」と子どもが思っている事案も多いのではないかなと思う。 ・自分の子も含めて、自分の意見を言う子は少ないなと感じている。もっと少人数からでも話し合い意見を言う場を作っていけたらよいのではないかなと思う。 ・中学校の道徳参観は、クラスによってさまざまだが、とても良かった。小学校と中学校で共有してほしい。	・引き続き、家庭・地域としっかりと課題について共有し、子供たちの成長を支えていく。 ・地域に出ていく学習を増やし、学習サポーターや地域協力者の力を惜みながら子どもたちと一緒に学ぶ機会を増やしていく。
	15	防災教育の推進、感染症対策の推進等、安心・安全な学校づくり	1.9		・今年度は、夏休みに学校運営協議会の役員に皆様と一緒にカリキュラムについて感る機会を持つことができた。「おごと大好き」の児童を育てるために地域教材を発掘し、もっと地域に出る学習・地域と繋がる学習をしていきたい。	2	・何がいじめにつながっているのか、道徳とはと考えられるとよいと思う。他人の考えや立場も理解できる。いじめとけんかの違いって何かな。道徳を守ることの合理性、カッコよさ、明るい言葉で表現し合うことで教室の空気も明るくなりますよ。 ・「それは、いじめだと思っていなかった。」と子どもが思っている事案も多いのではないかなと思う。 ・自分の子も含めて、自分の意見を言う子は少ないなと感じている。もっと少人数からでも話し合い意見を言う場を作っていけたらよいのではないかなと思う。 ・中学校の道徳参観は、クラスによってさまざまだが、とても良かった。小学校と中学校で共有してほしい。	・引き続き、家庭・地域としっかりと課題について共有し、子供たちの成長を支えていく。 ・地域に出ていく学習を増やし、学習サポーターや地域協力者の力を惜みながら子どもたちと一緒に学ぶ機会を増やしていく。
② 保幼小中の連携	16	子どもの校種間交流や教員の出前授業	2.2		・今年度は、坂本幼稚園と星の子保育園の園児を招いて5・5交流や1・5交流をすることができたことで、児童の成長が見られた。互いに交流する場を増やしていきたい。	2	・何がいじめにつながっているのか、道徳とはと考えられるとよいと思う。他人の考えや立場も理解できる。いじめとけんかの違いって何かな。道徳を守ることの合理性、カッコよさ、明るい言葉で表現し合うことで教室の空気も明るくなりますよ。 ・「それは、いじめだと思っていなかった。」と子どもが思っている事案も多いのではないかなと思う。 ・自分の子も含めて、自分の意見を言う子は少ないなと感じている。もっと少人数からでも話し合い意見を言う場を作っていけたらよいのではないかなと思う。 ・中学校の道徳参観は、クラスによってさまざまだが、とても良かった。小学校と中学校で共有してほしい。	・星の子保育園・坂本幼稚園と一緒に考えた架け橋プログラムを意識した学習環境を整えていく。 ・5歳児さんと1年生の交流は年間2回行う。(秋祭り・一日入学) ・星の子保育園と坂本幼稚園と一緒に交流する機会を作ってみる。 ・5歳児さんと5年生との交流は今年度同様年3回は行う。 ・星の子保育園への職員による出前授業も考えていく。
	17	校種間の授業公開や合同研修会	2		・今年度は、坂本幼稚園と星の子保育園の先生方と一緒に、架け橋期(5歳児から1・2年生)カリキュラムについて研修したり、考えたりすることができた。完成と活用を目指していきたい。	2	・何がいじめにつながっているのか、道徳とはと考えられるとよいと思う。他人の考えや立場も理解できる。いじめとけんかの違いって何かな。道徳を守ることの合理性、カッコよさ、明るい言葉で表現し合うことで教室の空気も明るくなりますよ。 ・「それは、いじめだと思っていなかった。」と子どもが思っている事案も多いのではないかなと思う。 ・自分の子も含めて、自分の意見を言う子は少ないなと感じている。もっと少人数からでも話し合い意見を言う場を作っていけたらよいのではないかなと思う。 ・中学校の道徳参観は、クラスによってさまざまだが、とても良かった。小学校と中学校で共有してほしい。	・星の子保育園・坂本幼稚園と一緒に考えた架け橋プログラムを意識した学習環境を整えていく。 ・5歳児さんと1年生の交流は年間2回行う。(秋祭り・一日入学) ・星の子保育園と坂本幼稚園と一緒に交流する機会を作ってみる。 ・5歳児さんと5年生との交流は今年度同様年3回は行う。 ・星の子保育園への職員による出前授業も考えていく。
	18	保幼小中の接続期の教育課程の編成等校種間のカリキュラム研究	2.1		・幼稚園へ作品展の見学に行ったり、星の個保育園のマルシェに参加したりすることで、良い刺激を受け、新たな視点で見ることができるようになった。	2	・何がいじめにつながっているのか、道徳とはと考えられるとよいと思う。他人の考えや立場も理解できる。いじめとけんかの違いって何かな。道徳を守ることの合理性、カッコよさ、明るい言葉で表現し合うことで教室の空気も明るくなりますよ。 ・「それは、いじめだと思っていなかった。」と子どもが思っている事案も多いのではないかなと思う。 ・自分の子も含めて、自分の意見を言う子は少ないなと感じている。もっと少人数からでも話し合い意見を言う場を作っていけたらよいのではないかなと思う。 ・中学校の道徳参観は、クラスによってさまざまだが、とても良かった。小学校と中学校で共有してほしい。	・星の子保育園・坂本幼稚園と一緒に考えた架け橋プログラムを意識した学習環境を整えていく。 ・5歳児さんと1年生の交流は年間2回行う。(秋祭り・一日入学) ・星の子保育園と坂本幼稚園と一緒に交流する機会を作ってみる。 ・5歳児さんと5年生との交流は今年度同様年3回は行う。 ・星の子保育園への職員による出前授業も考えていく。
組織的体制の充実								
① 生徒指導体制の充実	19	いじめや暴力行為、不登校等生徒指導上の諸課題の早期発見、日常的な予防指導	2		・暴言を吐く児童や物の扱いが雑な児童が多くみられるので、その指導方法を考えていきたい。発達支持的な指導が大切だと考えるので、子どもたちの様子を常日頃からしっかりと観察し、普段と違う様子が見られたら声をかけることを全職員で行ってきたい。起こってしまったことに対しては、丁寧に話を聞き、解決していくことが大切であるので今後も続けていく。	2	・何がいじめにつながっているのか、道徳とはと考えられるとよいと思う。他人の考えや立場も理解できる。いじめとけんかの違いって何かな。道徳を守ることの合理性、カッコよさ、明るい言葉で表現し合うことで教室の空気も明るくなりますよ。 ・「それは、いじめだと思っていなかった。」と子どもが思っている事案も多いのではないかなと思う。 ・自分の子も含めて、自分の意見を言う子は少ないなと感じている。もっと少人数からでも話し合い意見を言う場を作っていけたらよいのではないかなと思う。 ・中学校の道徳参観は、クラスによってさまざまだが、とても良かった。小学校と中学校で共有してほしい。	・児童が「いじめ防止ポスター」づくりに取り組む機会を作る。 ・毎月の生活目標を教室や廊下に掲示し、児童と一緒に取り組んでいくことで環境を整えていく。
	20	生徒指導・教育相談体制の確立と組織的な推進	2		・生徒指導主任・子ども支援コーディネーターを中心に、学校全体で迅速かつ丁寧な指導(連携して複数での聞き取りや指導)に取り組むことができた。事案の共有、組織対応は必須である。	2	・何がいじめにつながっているのか、道徳とはと考えられるとよいと思う。他人の考えや立場も理解できる。いじめとけんかの違いって何かな。道徳を守ることの合理性、カッコよさ、明るい言葉で表現し合うことで教室の空気も明るくなりますよ。 ・「それは、いじめだと思っていなかった。」と子どもが思っている事案も多いのではないかなと思う。 ・自分の子も含めて、自分の意見を言う子は少ないなと感じている。もっと少人数からでも話し合い意見を言う場を作っていけたらよいのではないかなと思う。 ・中学校の道徳参観は、クラスによってさまざまだが、とても良かった。小学校と中学校で共有してほしい。	・児童が「いじめ防止ポスター」づくりに取り組む機会を作る。 ・毎月の生活目標を教室や廊下に掲示し、児童と一緒に取り組んでいくことで環境を整えていく。
	21	家庭・地域・関係機関との連携による指導	2		・事案の数は減ってきたと感じているが、まだまだゼロにならないところは課題が大きく、指導力不足だと感じている。毎日できることを精いっぱい頑張っていきたい。学校だけで頑張ろうとするのではなく、保護者や地域・関係機関と連携していくことをもっと大切にしていきたい。	2	・何がいじめにつながっているのか、道徳とはと考えられるとよいと思う。他人の考えや立場も理解できる。いじめとけんかの違いって何かな。道徳を守ることの合理性、カッコよさ、明るい言葉で表現し合うことで教室の空気も明るくなりますよ。 ・「それは、いじめだと思っていなかった。」と子どもが思っている事案も多いのではないかなと思う。 ・自分の子も含めて、自分の意見を言う子は少ないなと感じている。もっと少人数からでも話し合い意見を言う場を作っていけたらよいのではないかなと思う。 ・中学校の道徳参観は、クラスによってさまざまだが、とても良かった。小学校と中学校で共有してほしい。	・児童が「いじめ防止ポスター」づくりに取り組む機会を作る。 ・毎月の生活目標を教室や廊下に掲示し、児童と一緒に取り組んでいくことで環境を整えていく。
② 特別支援教育の充実	22	個別的教育支援計画及び個別の指導計画の作成と活用	1.9		・子どもたちの困り感をしっかりとキャッチしアセスメントを通して適切な支援を保護者とともに考えていくことが大切である。保護者と一緒に考えた個別の指導計画は作成だけでなくとどまらずしっかりと実践・振り返りを行い、有効的なものとして行きたい。	2	・何がいじめにつながっているのか、道徳とはと考えられるとよいと思う。他人の考えや立場も理解できる。いじめとけんかの違いって何かな。道徳を守ることの合理性、カッコよさ、明るい言葉で表現し合うことで教室の空気も明るくなりますよ。 ・「それは、いじめだと思っていなかった。」と子どもが思っている事案も多いのではないかなと思う。 ・自分の子も含めて、自分の意見を言う子は少ないなと感じている。もっと少人数からでも話し合い意見を言う場を作っていけたらよいのではないかなと思う。 ・中学校の道徳参観は、クラスによってさまざまだが、とても良かった。小学校と中学校で共有してほしい。	定期的に特別支援部会を開催し、個に応じた学習について考えていく。 ・全職員で支援級の学習を体験する機会を設ける。 ・教師向けだけでなく、児童向け「特別支援学級についての理解教育」を取り入れていく。 ・児童への支援の仕方について職員が学ぶ機会を増やす。
	23	組織的・計画的な特別支援教育体制の確立	2.1		・個別の取り出し学習が今後必要だと考えられる児童について話し合うために、定期的な特別支援部会の開催も必要である。 ・ユニバーサルデザイン研修等を通して教職員が共通理解共通実践を目指すことができた。どの子どもにも役立つ支援を教室に取り入れているので、もっと充実させていきたい。	2	・何がいじめにつながっているのか、道徳とはと考えられるとよいと思う。他人の考えや立場も理解できる。いじめとけんかの違いって何かな。道徳を守ることの合理性、カッコよさ、明るい言葉で表現し合うことで教室の空気も明るくなりますよ。 ・「それは、いじめだと思っていなかった。」と子どもが思っている事案も多いのではないかなと思う。 ・自分の子も含めて、自分の意見を言う子は少ないなと感じている。もっと少人数からでも話し合い意見を言う場を作っていけたらよいのではないかなと思う。 ・中学校の道徳参観は、クラスによってさまざまだが、とても良かった。小学校と中学校で共有してほしい。	定期的に特別支援部会を開催し、個に応じた学習について考えていく。 ・全職員で支援級の学習を体験する機会を設ける。 ・教師向けだけでなく、児童向け「特別支援学級についての理解教育」を取り入れていく。 ・児童への支援の仕方について職員が学ぶ機会を増やす。
	24	関係機関と連携した相談体制の充実	1.9		・必要に応じて保護者と関係機関をつなぐことができた。 ・担任が一人で悩むことがないよう、組織で対応することができているのでこの体制は引き続き継続していきたい。 ・交流教科で学びに参加する児童のケアや安全確保を指導者一人が網羅することはとても難しいので体制について考えていきたい。	2	・何がいじめにつながっているのか、道徳とはと考えられるとよいと思う。他人の考えや立場も理解できる。いじめとけんかの違いって何かな。道徳を守ることの合理性、カッコよさ、明るい言葉で表現し合うことで教室の空気も明るくなりますよ。 ・「それは、いじめだと思っていなかった。」と子どもが思っている事案も多いのではないかなと思う。 ・自分の子も含めて、自分の意見を言う子は少ないなと感じている。もっと少人数からでも話し合い意見を言う場を作っていけたらよいのではないかなと思う。 ・中学校の道徳参観は、クラスによってさまざまだが、とても良かった。小学校と中学校で共有してほしい。	定期的に特別支援部会を開催し、個に応じた学習について考えていく。 ・全職員で支援級の学習を体験する機会を設ける。 ・教師向けだけでなく、児童向け「特別支援学級についての理解教育」を取り入れていく。 ・児童への支援の仕方について職員が学ぶ機会を増やす。